



みらいつうしん

9月号

2018年9月1日
 田園調布学園大学
 みらいこども園
 園長 長南 康子



一人一人の学びや育ちを保障する

35度の高温にも、あまり驚かなくなってしまうこの夏の暑さでした。残暑がしばらく続きそうです。身体への負担も大きかったと思います。ゆっくり体調を戻すことに努めてまいりましょう。

さて、本園保育者・職員にとって、7～8月は研修・研究に集中して取り組む月間となっています。日々の保育を見直し、教育・保育のよりよい在り方を皆で学びあう貴重な時間となります。また、他園、他校、行政等から多くの方が見学に見えました。今年は海外からの研修生もみらいこども園の生活を体験しました。来園された方々が、見学を終えて感想をお話くださった内容の多くは、みらいこども園は子ども達の自主性を大事にしている。また、このことに関連して、保育者が主導・先導する場面がほとんどなく、子どもが主体となるような働きかけをしているということでした。初めて、本園の教育・保育の様子をご覧になった外部の方々がこのような印象をもってくださったことはとてもうれしいことでした。

集団の場であっても、一人一人の学びや育ちを保障していくためには、個々の興味・関心に気づき、“やってみよう”を十分に満足させたい。子どもの心情や発達を十分に理解せずに、大人の都合で子どもを集団行動的に動かそうとすることはないだろうか。一人一人を大事にした時間や場所の保障を考えているだろうか。勿論、年齢や個々に応じて、集団としての意識や行動がとれるようにすることも必要だと考えています。

個や集団の中で基準にすることは一人一人が何をどのように学ぶかを考えることです。

今後もこのことを大事にした教育・保育を行ってまいります。

(長南)



個々のペースで午睡に入る



【洗濯日和】園庭で“せんたく”

施設の改修工事を行いました



玄関前の手摺りの修理



早朝・延長保育で使用しているほし2組

夏休み前の工事の下見作業の際には、興味深く、業者の方々のやりとりを見たり、聞いたりしている子どもの姿がありました。きれいになったランチルームに1番先に足を踏み入れたにじ組さん。ピカピカの床に吸い寄せられるように寝転び、頬を付けて「ツルツル!」と、声をあげていました。新しい学期を迎え、子ども達がさらに豊かな遊びを安心して展開できるよう環境を整えていきたいと思ひます。工事中は、保護者の皆様にもご協力をいただき、ありがとうございました。副園長 中城真由美



ランチルーム床の改修



枠のひび割れの改修